

平成28年度自己評価表

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の一つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに現場力を高めることを意識しながら、大学卒業の証である学士を取得し、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・養護教諭免許が一種であることを理解し学力・資質ともに向上し公務員試験合格を目指す。

こども発達学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに職業教育の特色として実習の多さを活かしながら現場力を高める育成を目指す。そのことを生かして実践力の向上を目指し、就職につなげていく。

保育科・・・職業実践専門課程の認可を受け、さらに2年間で保育士と幼稚園教諭2種免許状を取得するため、学力はもちろん、より現場力・精神力の向上を目指す。

医療事務総合学科・・・職業実践専門課程の認可を受け、知識・技術・技能を机上の勉学と共にしながらより職業に必要な実践・専門的な能力の育成を課外実習を通して教行い職業教育の維持向上を図る。また、単位制導入により個々の将来像と照合し効率的に学習を進める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

学校の理念や目的、特色等は担任制をとっているため学生への周知は徹底されている。また、実習や就職で関係のある園や院に対しても信頼を得られるよう取り組みを行うことはこれからも必要となるだろう。学校の将来構想について昨今の少子化や大学入学易化の変化により、中長期的に柔軟に対応していくことや保護者に対する学校の取り組みに対する周知理解が今後の必須課題である。

② 今後の改善方策

学校の理念や目的、特色等を保護者等に周知するにあたり、HP等のWebを利用した方法、外部への訪問、ボランティア活動そして、実習の巡回を通してより広めることが必要である。また、学科による教員の共通理解を行い、教員自身もスキルアップを図ることで、より高度な育成人材像に加え学科に対応する社会に求められる人材にあった取り組みを考えていく必要がある。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

学生等の個人情報の流出など情報システムの強固が今後も必要となるだろう。その中で業務の効率化を目指すため、業務内容の見直しが今後必要であろう。学生指導やその他業務に関する事項を各部署の会議によって迅速な対応ができるようにしているが、共通理解に関する事項をさらに深いものにするための取組が必要となる。

② 今後の改善方策

職員同士の共通理解による状況の把握が必要であるため、より情報を共有するための工夫、個人情報の保護の徹底が必要になってくるだろう。共通理解の方策として職員同士の会話が大切になると考える。話し合う機会を多く持ち、その結果を報告するといった流れをより大切に、取り組むことが今後も必要になると考える。

③ 特記事項

特になし

(3-1) . 教育活動 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	(4) 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

1年生から公務員に向けての学習を続けているが、長期の目標を維持することが課題となる。
また、小学校教諭、養護教諭の免許取得を早い段階で意識付けをすることも課題となるだろう。
より早く職業意識を持つことができる取り組みを考えていく。

② 今後の改善方策

入学時から、教職に関する講義を入れることも視野に入れながら、学科内での縦のつながりを深めて、職業意識を高めていく。

③ 特記事項

特になし

(3-2) . 教育活動 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

提携校変更による過密な授業環境の中、実習を見直し保育力、現場力向上を高めるためには、実践的な授業、実習事前事後学習などをより深める必要がある。学習時間が増えているのだが、そのため学生の学力、資質の差が大きく開いている事項もあることが見られるため、個別の対応を強化していく。

② 今後の改善方策

これまで同様 少人数制で保育力向上を目指す取り組みを実践していく。実習指導も模擬保育などを取り入れる他、実技指導の様子をビデオ撮影を行い見直す学習など、より実践的な指導で現場力向上をはかりたい。また、担任を始め教員自身が授業数が増えたことにより学生対応をする時間が設けられず細やかな指導が不足していることから、少人数制授業を活かすことなど、授業を通じた学生対応や課題研修ができるように時間割を工夫し取り組んでいきたい。

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(3-3) . 教育活動 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

提携大学のカリキュラムと保育士指定校である当校の時間割で対応することの難しさについて、時間の使
い方や学習の方法などを見直さなくてはならない。

② 今後の改善方策

学生の学習能力の向上を図りつつ提携大学のレポート・試験のスケジュールの調整などにより、学生の能力
とカリキュラムの進み方との差をなくす。

③ 特記事項

特になし。

(3-4) . 教育活動 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

現場となる医療機関の現状や今後の医療分野に関する情報収集がまだ足りない。また、関連分野に関する教員を確保し、より実践的に学生の職業理解に繋げていくことが課題である。

② 今後の改善方策

教員が医療機関に関する情報に対し、積極的に情報収集する姿勢や関連分野に関する研修の参加、研究活動など通じ関連分野に関する教員のスキルアップが必要である。

③ 特記事項

特になし。

(4-1) . 学修成果 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

公立の保育士として採用される学生もいることで、公務員試験を目指す学生が増えている。そのため、臨時職員などで就職する学生もいる。
4年間の学修成果を発揮できるように、早めの進路選択が課題となる。

② 今後の改善方策

公務員希望や保育業界希望などの学生が存在することから、様々な職種に就職をした卒業生を含む社会人からの現場の声を聞く機会提供する。

③ 特記事項

特になし。

(4-2). 学修成果 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

① 課題

自己実現の目標達成する上で 知識や技能を身に付けるだけでなく、コミュニケーション力などの人間力を身に付ける必要性を感じる。

② 今後の改善方策

自己分析 コミュニケーションワーク等を実施し、現場を見通した系統的な指導を行っていきたい。

③ 特記事項

特になし

(4-3) . 学修成果 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

年々求人時期が早まり、学生の就職活動のピークも早まっている。必要な知識や実習経験が伴わないうちに就職を決める学生が多く、研修期間に内定先からの評価が下がる者も多い。内定して終わりではなく、特に社会常識においては細かく継続した指導を続けなければならない。

② 今後の改善方策

HRやRGSといった授業で学生指導を行っているが、学生が認識している一般常識はそれぞれの学生の能力によって様々であることが見られる。日頃の出来事を事例に挙げ、事細かに常識について話しあう機会を増す授業やかかわりを実施していく。卒業後の指導については、職場の上司や先輩に託すことになるが、学校としても卒業後のフォローをしていく必要が考えられる。年に1, 2度卒業生の情報交換会が開かれると良いのではないかな。

③ 特記事項

特になし

(4-4) . 学修成果 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

社会経験の乏しさが就職先での振る舞いや評価に反映するケースがみられる。

② 今後の改善方策

一般常識や社会人としての作法などについてさらに深まる指導が必要であると考え。教員自身も様々な学生に対応できるよう、誰もが知っていて当然と思わず、細かく助言・指導をしなければいけない。

③ 特記事項

特になし

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1
・ 保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 2 1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 2 1

① 課題

（ 上記項目の評価が「3」についても、より能動的な対応ができる体制づくりが望ましい。
引き続き、就職・研修支援担当の補充を早急に行う。 ）

② 今後の改善方策

（ 特になし ）

③ 特記事項

（ 特になし ）

(6-1) . 教育環境 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

公務員対策室での自習は定着してきたが、各学年が自習等で使用できる教室が常に用意できることが課題となる。

② 今後の改善方策

図書室なども有効に活用することが求められる。

③ 特記事項

特になし

(6-2) . 教育環境 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

災害時の避難などを想定した場合、校舎の老朽化が見られる箇所もある。教育環境の再度確認等、安全面を考えた配慮が必要となる。

② 今後の改善方策

学習に関する設備は日々変化していくため、最新のものの把握が必要である。また校舎等安全面については常に点検を実施していきたい。

③ 特記事項

なし

(6-3) . 教育環境 (保育科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 (3) 2 1

① 課題

引き続き、音楽実習室内の通路の確保が万全でない。教室内左右に分かれて座っている学生が、いざという時に一つの通路しか通れないというのは危険である。

② 今後の改善方策

音楽実習室を2教室設置したことから、一つの教室にクラス全員を入室させることに拘らず、2つの教室を効率よく使用するなど対応していきたい。電子ピアノの数を減らしゆとりを持って配置すると、通路の確保だけでなく、学生の演奏姿勢なども改善され、弾き方も上達すると思われる。

③ 特記事項

特になし

(6-4) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 (3) 2 1

① 課題

インターネットの接続が不安定な時もあり、パソコンとプリンターの使用に支障があることがある。

② 今後の改善方策

安定したネットワーク環境を整備する。

③ 特記事項

学生ラウンジが新設され、自教室以外でも休憩や自習することができる場所として活用されている。

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

〔 受験者数が年々減少しているため、今後の募集対策が課題である。 〕

② 今後の改善方策

〔 当校の特徴や実績が、より分かり易く正確に伝わるように配慮し広報活動を行う。 〕

③ 特記事項

〔 併修大学変更を機に学費・諸費等の見直しを行った。経済的な負担ができるだけ少なくなるよう配慮し金額設定を行った。 〕

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

〔 特になし 〕

② 今後の改善方策

〔 特になし 〕

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

〔 全項目について適正な運営を行うよう努めているが、個人情報保護管理体制の整備・強化は継続的な重要課題である。 〕

② 今後の改善方策

〔 個人情報保護管理に対する教職員の意識を継続的に強化していく。また、自己評価の問題点に対する定期的な見直しを行う。 〕

③ 特記事項

〔 法令遵守のための体制を強化し周知徹底することが重要である。また個人情報の保護に関しては、定期的な確認とともに、より一層の意識統一を図っていくことが大切である。 〕

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

〔 自主的に学生からボランティアに参加できるような人材育成も必要となる。 〕

② 今後の改善方策

〔 情報提供を行いながら、自主的な参加を促すように指導をしていく。 〕

③ 特記事項

〔 今年度は県内全域を対象に幼稚園教諭資格特例講座を実施し、全受講生が合格した。 〕

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校が挙げる「商業実務及び教育・社会福祉分野において、専門的な知識・技術と合わせ教養人格の高い道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成」の教育目標を軸に学生指導及び学校運営を行っている。結果として、日々の積み重ねにより学生の指導、就職へと繋がっていることは、現在も継続されていることが見られるであろう。今後も「道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成」に向けた取り組みを継続的に行っていきたい。

平成 28 年度の自己評価を振り返ると、二つの事項が見られる。

一つ目は、新たに教育連携を行っている大学による学習方法の変更である。学習方法を始め、実習に関する書類、学費に関する事項等が大学により変わることから学生への伝達、指導内容も変更せざる負えない状況である。また、学生に様々な変更点を伝えるためには教職員自身も変更先の大学が求める対応を把握し、実施しなければならない。それら変更に対しても柔軟な対応を取れる体制を今後もとることにより、教職員自身のスキルアップにつながるのではないかと考える。

二つ目に自己評価を振り返ることで、様々な学生支援が必要であることがわかる。学生の職業人としての資質向上を目標とすることを踏まえながら、学生の一人ひとりのフォローが大切になってくるだろう。また、学生を取り巻く生活環境の中で、生活指導のほか、経済的支援も必要とする学生が存在する現状もみられる。そのために当校では学生一人ひとりに対し、担任制を活かした手厚い指導を行っている。また、経済的な支援が必要な学生を調査し、国による補助対象である経済的支援事業を実施するといった、多角的な支援を実施している。しかし、担任制を実施しているとはいえ、それら様々な指導及び支援について、担任をしている教員一人では把握や指導は困難であろう。そこで明らかになる学生指導上の課題を役職会議や職員会議を通して情報共有を図ることや学科内での情報共有、授業担当との連携など、学校全体で学生一人ひとりを育てる体制をとることが今後も継続的に必要になる事項であろう。これら事項に対し、当校が実施している職業実践における、系列付属園、医療機関等における実習など外部との関わりをより増やすことで、学問と実践の双方に良い効果が表れるのではないかと考える。

職業実践を行う専修学校として、外部機関との繋がりを大切にし、常に新鮮な情報を得ることが、学生の資質向上、就職支援の他、教職員の資質向上に繋がるのではないかと考える。今後も、「こども分野」「医療分野」それぞれの分野に関わる業界ニーズをいち早く捉え、自立した学生の指導を目指していきたい。昨年度より全学科が職業実践専門課程を文部科学省より認可され、学校内の学習だけでなく、より学外の企業との連携を取り学生たちの資質向上を図ることを目指していきたい。

そして情報システムが多様化される中、システムをより有効活用できるようシステムの構築や個人情報保護、情報流出の防止等についてもより強化できるよう配慮を行うことが大切である。

今後もこの体制を崩すことなく教職員共通認識の下で学生指導、学校運営を行っていきたい。

最後に、この点検・評価は透明性と公開性の高い評価であり、本校が「専門学校等評価基準」に基づく自己点検・自己評価活動を適切かつ適正に行っていること、および本校の教育活動と学校運営の全てが基準を満たしていることを証明するものである。

本校はより良い教育の場であることを目指して更なる改善に努めていきたい。